

二〇二二年度 茨城キリスト教大学一般選抜入学試験 一期

国 語

(解答は解答用紙に記入すること)

I 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

移民受け入れが社会にもたらす影響を考えるためには、まず移民とは誰かを定義する必要がある。移民がどのような人を指すのかには、多様な見方がある。その一つが「永住を意図して移り住んだ人」というものだ。日本ではこの意味で「移民」という語を用いることが一般的であろう。

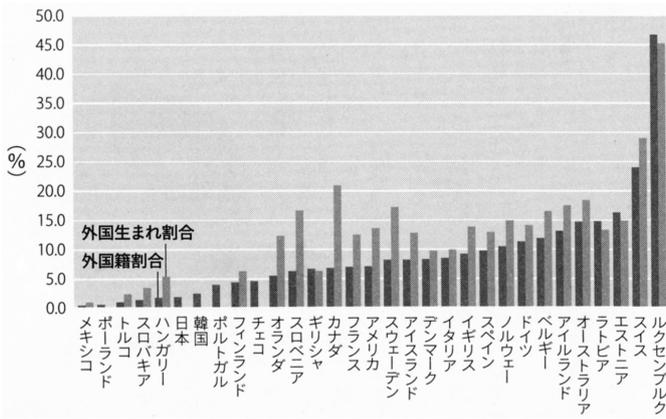
a、国語辞典の大辞泉では「個人あるいは集団が永住を望んで他の国に移り住むこと。また、その人々」と定義されている。日本政府は中長期的なものも含め、外国人労働者の受け入れを進めつつ、移民政策をとらないという立場であったが、それでも一定の期間に限定された滞在者としての外国人労働者と、永住を前提とした移民が、明確に区別されている。

しかし、bを含む定義は、今日の移民の状況を分析するうえで有効ではない。もともと一定期間働いた後に帰国するつもりだった外国人労働者が、滞在のcにつれて定住していくことは、多くの国の事例から明らかになっている。交通手段の発達もあり、移民の中には出身国と居住国の間を行き来するような、国を越えた移動を繰り返し行っている人も少なくない。このため、どの時点の意図や、どのように測定した滞在期間をもって「永住」とするのかを判断するのも困難である。

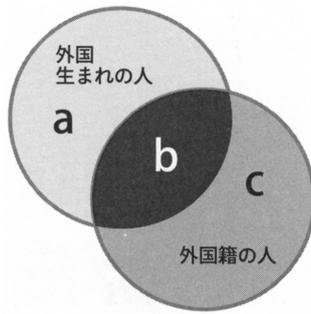
d、永住意図をもとにした定義は、移民の実態とそぐわない。そのため、国際連合経済社会局やOECD（経済協力開発機構）をはじめ、移民の定義には永住意図や移住理由などを含まないものが一般的である（United Nations Department of Economic and Social Affairs 1998, OECD 2013）。

永住意図を定義から除外すれば、移民とは「生まれた国から一時的なものも含め、他の国に移り住んだ人」を指す。このような意味で本書も移民という語を用いる。（以上、前半）

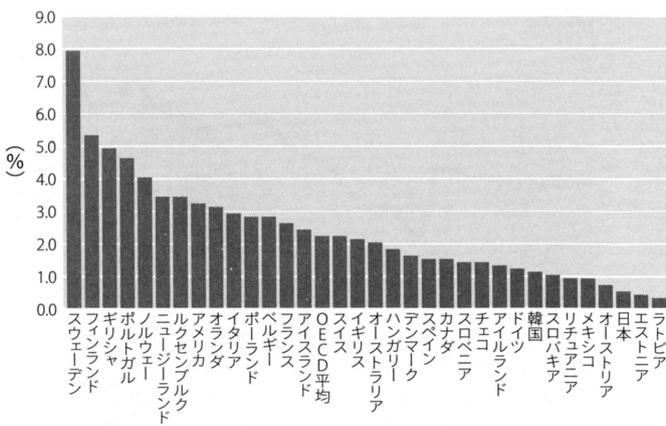
このように定義される移民は、現在の日本にどの程度いるのか。実はこの定義を用いると、移民の人数は明確には把握できない。日本では国勢調査



図P-1 OECD諸国の外国籍人口割合と外国生まれ人口割合の比較 (2016年)
 出典：OECD, STAT, *International Migration Database*. United Nations, *World Population Prospects*. から作成



図P-2 「移民」の範囲



図P-3 帰化者割合 (対外国籍人口, 2017年)
 注：オーストラリア, ニュージーランド, カナダは外国生まれ人口に対する割合
 出典：OECD, 2019, *International Migration Outlook*. Paris: OECD.

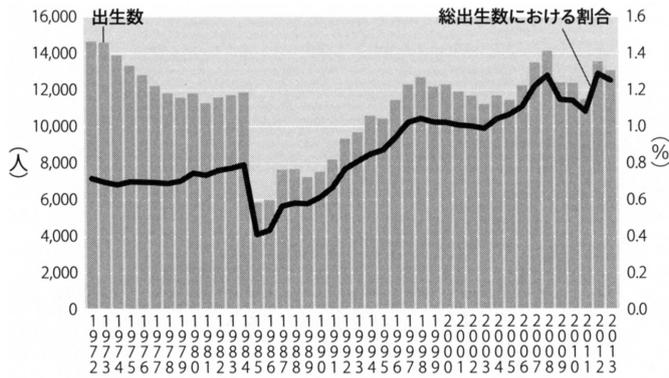
で出生国に関する統計はとられていないからだ。日本で把握されているのは、本人および親の国籍のみである。「外国籍」と「外国生まれ」という二つのカテゴリは、似て非なるものである。両者の違いは、それぞれの人数を比較するとよくわかる。図P-1では、外国籍者の人口と外国生まれの人口の総人口に対する割合を示した。残念ながら、日本と韓国では外国生まれの人口についての統計がないため、その割合は明らかではない。しかし、他の国の数値を見れば、多くの国で、外国生まれ人口が外国籍人口を上回っていることがわかるだろう。

たとえば、アメリカでは外国籍人口は六・九%にとどまるが、外国生まれ人口は一三・四%と六・五ポイント程度高くなっている。カナダではさらに差が大きく、外国籍人口は六・六%なのに対し、外国生まれ人口は二〇・七%に達し、一四・一ポイントの差がある。

外国籍者の数と外国生まれの数がなぜ大きく異なるのか。それには、各国の国籍制度がかかわっている。図P-2は「外国籍」と「外国生まれ」の関係をベン図にしたものである。図のaは外国生まれだが、外国籍ではない人、bは外国生まれで外国籍の人、cは外国籍で外国生まれではない人を指す。外国籍人口はb+cの合計であり、外国生まれ人口とはa+bの合計である。したがって、外国籍と外国生まれの人数の差は、aとcの差にかかわっている。

aとcにあたるのは、それぞれのような人だろうか。aの外国生まれだが、外国籍ではない人とは、移住後に居住国の国籍を取得した人、あるいは居住国の国籍をもって国外で生まれた人である。したがって、帰化が容易な国であれば、aの人数が多くなり、bの人数は少なくなる。

図P-3は二〇一七年の



図P-4 日本における子が外国人となる出生数とその割合の推移

出典：厚生労働省『平成26年度 人口動態特殊報告』をもとに作成

外国籍人口に対する帰化者の割合を示したものである。これを見ると、スウェーデンやフィンランド、ギリシャでは帰化者の割合がきわめて大きいのに対し、日本では非常に小さくなっていることがわかる。

つまり、図P-1のスウェーデンやフィンランドで外国生まれ人口が外国籍者人口を上回っていたのは、帰化して外国籍でなくなる人口の多さを e したものである。ただし、国籍の取得には一定期間以上の居住が必要となるため、ここに挙げた数値はあくまで概算でしかなく、移民が増加傾向にある国ではその割合が低く、減少傾向の国では高くなる点に注意が必要だ。日本では、国内の外国籍者が増加する一方、帰化者は二〇一一年以降では年間一万人程度で大きく変化していない。

f、cの外国籍で外国生まれではない人とは、現在居住している国で生まれたが、居住国の国籍をもっていない人のことを指す。cにある人の数は、子どもが生まれた際に、どの国籍が付与されるかという国籍制度によって影響を受ける。

子どもが生まれた際の国籍付与に関する制度は、大きく言って出生地主義と血統主義に分けられる。

出生地主義とは、生まれた場所が国籍付与の基準となる制度を指す。出生地主義の国では、両親が外国籍でも、その国で生まれた子どもは、当該国の国籍を得られる。出生地主義の国の代表としては、アメリカが挙げられる。

血統主義は、親の国籍が国籍付与の基準となる制度を指す。日本は血統主義の国籍制度を導入しているため、日本で生まれて育った子どもであっても、両親が外国籍ならば外国籍となる。

図P-4は、日本で生まれた子どものうち、外国籍を付与される子どもの数と、その割合の推移を示したものである。これを見ると、一九八五年に激減したのち、徐々に増加し、二〇一三年には一万三〇〇〇人程度となっている。これは、全体の一・二％程度の子どもが外国籍を付与されたことを意味する。

一九八五年に激減しているのは、この年に国籍制度が変更されたからである。それ以前は、父親が外国籍者、母親が日本国籍者の場合には日本国籍が付与されなかったが、国籍法の改正により、この場合にも日本国籍が付与されるようになった。そのため、それまで「あ」として数えられていた子どもが、「い」に含まれるようになり、「う」を付与される子どもの数が減少したのである。このことから「外国籍者」の数が、国籍制度に大きく影響を受けることがわかるだろう。

このように、外国籍人口は「外国生まれで国籍を取得した人」を含まず、「居住国で生まれたが、Yにより外国籍にいる人」を含むため、移民の数の把握には適切ではない。(以上、後半)

注1 ベン図 …… いくつかの集合の範囲や関係を示した図。イギリスの学者ジョン・ベンによって考案された。

注2 帰化 …… 自ら申請することによって、その国の国籍を取得すること。

問一 空欄 a へ f に入れるのに最もふさわしい言葉を、それぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---------|--------|----------|--------|
| a | ア ただし | イ つまり | ウ ところが | エ たとえば |
| b | ア 多様な見方 | イ 移民政策 | ウ 外国人労働者 | エ 永住意図 |
| c | ア 多目的化 | イ 拠点化 | ウ 長期化 | エ 不確定化 |
| d | ア しかし | イ ただし | ウ したがって | エ 一方 |
| e | ア 考慮 | イ 反映 | ウ 区別 | エ 意図 |
| f | ア ただし | イ ちなみに | ウ ところが | エ 一方 |

問二 傍線X「その割合」とは、何をさしますか。ア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 外国人の出生数の割合
- イ 外国生まれの人の割合
- ウ 外国籍の人の割合
- エ 帰化者の割合
- オ 永住者の割合

問三 空欄〔あ〕〔う〕には「日本国籍」と「外国籍」のどちらかが入ります。〔あ〕〔う〕に入れる言葉として正しい組

み合わせをア～エから選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|--------|--------|--------|
| ア | あ…日本国籍 | い…外国籍 | う…外国籍 |
| イ | あ…日本国籍 | い…外国籍 | う…日本国籍 |
| ウ | あ…外国籍 | い…日本国籍 | う…外国籍 |
| エ | あ…外国籍 | い…日本国籍 | う…日本国籍 |

問四 空欄〔Y〕に入れるのに最もふさわしい言葉を、本文中から五文字以上、十文字以内で抜き出しなさい。

問五 この文章は、内容の点から、前半と後半の二つに分けられます。前半部分と後半部分の内容として最もふさわしいものをそれぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

(前半)

- ア 移民の定義
- イ 移民の歴史の変遷
- ウ 世界の移民の動向
- エ 移民をめぐる日本と海外の相違

(後半)

- ア 移民の定義の問題点

イ 移民と国籍との関係

ウ 日本における制度の変化

エ 各国の制度による移民への影響

問六 次の1～7の文について、本文の内容にふさわしいものには○、そうでないものには×をつけなさい。

- 1 移民と、一定の期間に限定された滞在者は、明確に区別できない。
- 2 日本のような血統主義よりも、アメリカのような出生地主義が現在の世界の主流である。
- 3 外国籍を持っていて日本で生まれた人を「移民」と扱うのは、日本のみである。
- 4 各国の事情が異なるので、移民の算出方法は、国によって工夫すべきだ。
- 5 統計として、移民の数と、外国籍の人の数は、別のものだ。
- 6 日本は労働力不足を解消し多文化社会をつくるため、移民を積極的に受け入れるべきだ。
- 7 現在の日本の統計調査では、移民の数を正確に把握することはできない。

II

問一 次の①～⑤の傍線部の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

- ① 彼女は同僚にほめられて溜飲を下げた。
- ② あの男は、どこか胡散臭さを醸し出している。
- ③ あの人は、碩学として有名だ。
- ④ 人の気持ちを弄ぶべきではない。
- ⑤ 戦後何年経っても遺族の心の傷が癒えることはない。

問二 次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- ① 登山の醍醐味をマンキツする。
- ② あの人は、キンゲン実直な性格だ。
- ③ 我が家の犬は、食欲オウセイだ。
- ④ その犯人には、サギ罪が適用された。
- ⑤ 着物のスソが汚れてしまった。

問三 次の①～⑤の四字熟語中の□に当てはまる漢字を、それぞれa～dの中から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 純□無垢 | a | 新 | b | 心 | c | 信 | d | 真 |
| ② | 一目瞭□ | a | 然 | b | 前 | c | 善 | d | 全 |
| ③ | 時期□早 | a | 生 | b | 少 | c | 尚 | d | 昇 |

- ④ 四面□歌 a 祖 b 楚 c 素 d 疎
 ⑤ 荒□無稽 a 唐 b 投 c 頭 d 等

問四 次の①～⑤の慣用句（傍線部）中の漢字が正しければ○、間違っていれば正しい漢字一字を書きなさい。

- ① 失敗を恐れず、人事を尽くして運命を待とう。
 ② 家政は虎よりも猛しと言うように、難民になる人が後を絶たない。
 ③ あのコメントイターは、いつも俗耳に障りやすい極端な論を展開する。
 ④ 暑さ寒さも彼岸までと言うとおり、最近涼しくなってきた。
 ⑤ 彼の幼少時代は、橋にも棒にも掛からないやんちゃ坊主だった。

問五 次の①～⑤の意味を表す語句として最もふさわしいものを、それぞれa～dの中から選び、記号で答えなさい。

- ① よく知り抜いていること。
 a 通覧 b 通曉 c 通知 d 通解
 ② 恨み嘆くこと。
 a 羨望 b 詠嘆 c 悔恨 d 怨嗟
 ③ 笑うべきではない場面で、こらえきれず噴き出して笑うこと。
 a 失笑 b 爆笑 c 苦笑 d 冷笑
 ④ やむを得ないものとして受け入れること。
 a 受領 b 享受 c 受容 d 甘受
 ⑤ 人を受け入れる心が狭いこと。
 a 細心 b 小心 c 狭量 d 狹隘

国語解答用紙

I

問一	a
	工
	b
	工
	c
	ウ
	d
	ウ
	e
	イ
	f
	工

小計

問二	工
----	---

小計

問三	ウ
----	---

小計

問四	血統主義の国籍制度
	(十文字)

小計

問五	前半	ア
	後半	イ

小計

問六	6	1
	×	○
	7	2
	○	×
		3
		×
		4
		×
		5
		○

小計

II

問一	①	りゅういん
	②	うさん
	③	せきがく
	④	もてあそぶ
	⑤	いえる

小計

問二	①	満喫
	②	謹厳
	③	旺盛
	④	詐欺
	⑤	裾

小計

問三	①	d
	②	a
	③	c
	④	b
	⑤	a

小計

問四	①	天
	②	苛
	③	入
	④	○
	⑤	箸

小計

問五	①	b
	②	d
	③	a
	④	d
	⑤	c

小計

総計

受験番号